

授業評価結果に対する
教員のフィードバックに関する調査結果

東京工業大学 大学院 社会理工学研究科

平成23年度 前学期

平成24年3月

大学院 社会理工学研究科 評価委員会

1. 目的

授業に対する学生による授業評価のアンケート結果をもとに、教員が自分の授業をどのように自己点検し、授業の改善を図るかを検討することにより、今後の教育評価や改善方策の策定に役立つ。

2. 調査対象,調査方法

平成23年度前学期 授業の評価に協力してもらった授業43科目に対して、担当教員に科目別の評価結果及び全体の傾向を知らせた際、その評価結果を見て、今後どのように授業改善を行うかを尋ねた。
調査の実施、集計、分析については、教育工学開発センターの協力を得た。調査票の配布、回収などの事務作業については大学院社会理工学研究科事務係にお世話いただいた。

3. 調査時期

調査期間は平成23年12月13日から平成24年2月10日までである。

4. 調査項目

学生アンケートの実施状況、調査結果に対する予想と評価結果の乖離、今後の授業に対する工夫、について質問を行った。

5. 調査分析結果

5.1 回答数

回答科目数は8で回答科目率は18.6%である。回答者の所属専攻別の回答数を表1に示す。

表1 回答数

専攻区分	回答科目数	調査対象科目数	回答科目率(%)
人間行動システム	2	14	14.3
価値システム	3	14	21.4
経営工学	3	6	50.0
社会工学	0	9	0.0
合計	8	43	18.6

注) ここでの調査対象科目数は、授業評価アンケートの回収があった科目数であり、教員のフィードバック調査を依頼した科目数である。

5.2 調査結果への予想

調査結果の予想と実際との違いについて、以下の質問を行った。

質問1. 別紙アンケート項目(1~16, a~C)についてお伺いします。結果は予想された範囲内でしたか、それとも予想外だったでしょうか。

(1) 自分が予想した範囲より評価が高かった項目(複数回答可)の番号を記入して下さい。

(2) 自分が予想した範囲より評価が低かった項目(複数回答可)の番号を記入して下さい。

学生による授業評価が教員の予想より高かった項目、予想より低かった項目を下記の表2及び図1に示す。尚、選んだ項目は複数回答であるため、回答数の割合で示してある。

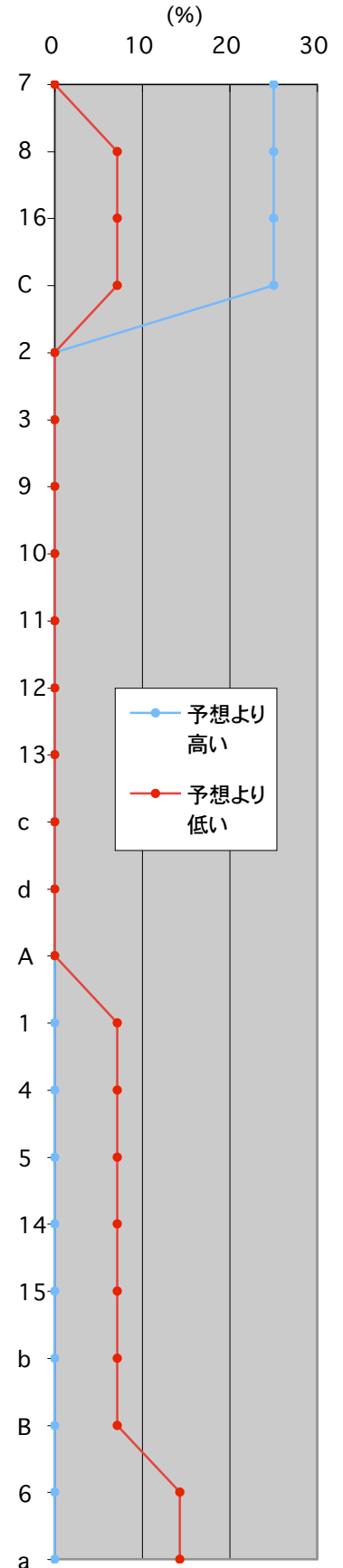
表2 学生の授業評価と教員の予想

評価項目	予想より高い		予想より低い	
	頻度	割合(%)	頻度	割合(%)
7. 教員の声は聞き取りやすかった。	1	25.0	0	0.0
8. 板書,OHP,パワーポイント等の視聴覚教材は見やすかった。	1	25.0	1	7.1
16. 教員は授業の準備をきちんとしていた。	1	25.0	1	7.1
C. あなたは,総合的にみて,この授業にどの程度満足しましたか?(100点満点)	1	25.0	1	7.1
2. 毎回の授業で,適切な要約,ポイントの指摘等が示されていた。	0	0.0	0	0.0
3. 教員は学生からの反応や意見を生かした授業をしていた。	0	0.0	0	0.0
9. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。	0	0.0	0	0.0
10. この授業は有意義だった。	0	0.0	0	0.0
11. 受講前よりもこの授業内容への興味が深まった。	0	0.0	0	0.0
12. 授業の水準や範囲は,大学院の講義として適切であった。	0	0.0	0	0.0
13. 授業に積極的に参加する機会(質疑,討論,実習など)が十分であった。	0	0.0	0	0.0
c. 授業の無遅刻出席率(無遅刻で出席した授業日・時間の割合%)を選択して下さい。	0	0.0	0	0.0
d. 自分の受講態度を自己採点すると何点ですか?(100点満点)	0	0.0	0	0.0
A. 授業の内容の理解度はどの程度ですか?(100点満点)	0	0.0	0	0.0
1. この授業は授業細目(シラバス)の内容を十分カバーしていた。	0	0.0	1	7.1
4. 教員は学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた。	0	0.0	1	7.1
5. 教員は学生の勉学意欲がわくような工夫をしていた。	0	0.0	1	7.1
14. 教室の設備・大きさは授業の内容に適していた。	0	0.0	1	7.1
15. 教員は,授業内容と現実社会のつながりを十分に説明していた。	0	0.0	1	7.1
b. この授業科目に関し,教室外での勉強(予習・復習・宿題・関連学習等)を十分行った。	0	0.0	1	7.1
B. あなたがこの授業で達成しようとしていた学習目標はどの程度達成されましたか?(100点満点)	0	0.0	1	7.1
6. 教員の説明は明快だった。	0	0.0	2	14.3
a. この授業を選択するに際して,授業細目(シラバス)をよく読んだ。	0	0.0	2	14.3
合計	4	100.0	14	100.0

(注:割合(%)は四捨五入によって小数第1位まで表示している)

評価項目

- 7. 教員の声は聞き取りやすかった。
- 8. 板書,OHP,パワーポイント等の視聴覚教材は見やすかった。
- 16. 教員は授業の準備をきちんとしていた。
- C. あなたは,総合的にみて,この授業にどの程度満足しましたか?(100点満点)
- 2. 毎回の授業で,適切な要約,ポイントの指摘等が示されていた。
- 3. 教員は学生からの反応や意見を生かした授業をしていた。
- 9. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。
- 10. この授業は有意義だった。
- 11. 受講前よりもこの授業内容への興味が深まった。
- 12. 授業の水準や範囲は,大学院の講義として適切であった。
- 13. 授業に積極的に参加する機会(質疑,討論,実習など)が十分であった。
- c. 授業の無遅刻出席率(無遅刻で出席した授業日・時間の割合%)を選択して下さい。
- d. 自分の受講態度を自己採点すると何点ですか?(100点満点)
- A. 授業の内容の理解度はどの程度ですか?(100点満点)
- 1. この授業は授業細目(シラバス)の内容を十分カバーしていた。
- 4. 教員は学生のレベルや理解度をよく把握して授業していた。
- 5. 教員は学生の勉学意欲がわくような工夫をしていた。
- 14. 教室の設備・大きさは授業の内容に適していた。
- 15. 教員は,授業内容と現実社会のつながりを十分に説明していた。
- b. この授業科目に関し,教室外での勉強(予習・復習・宿題・関連学習等)を十分行った。
- B. あなたがこの授業で達成しようとしていた学習目標はどの程度達成されましたか?(100点満点)
- 6. 教員の説明は明快だった。
- a. この授業を選択するに際して,授業細目(シラバス)をよく読んだ。



5.3 教員が行った授業の工夫

教員が平成23年度前学期の授業でどのような工夫をしたかについて、以下のように尋ねた。なお、この質問への回答者数は5人である。

質問2a. 平成22年度の授業と比較して、平成23年度の授業では以下のことを意識的になさいましたか？ それぞれの項目について、該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 意識しなかった。 2. いくらか意識した。 3. 大いに意識した。

教員が行った授業の工夫について図2に示す。また、その頻度分布を次の頁に示す（図3）。

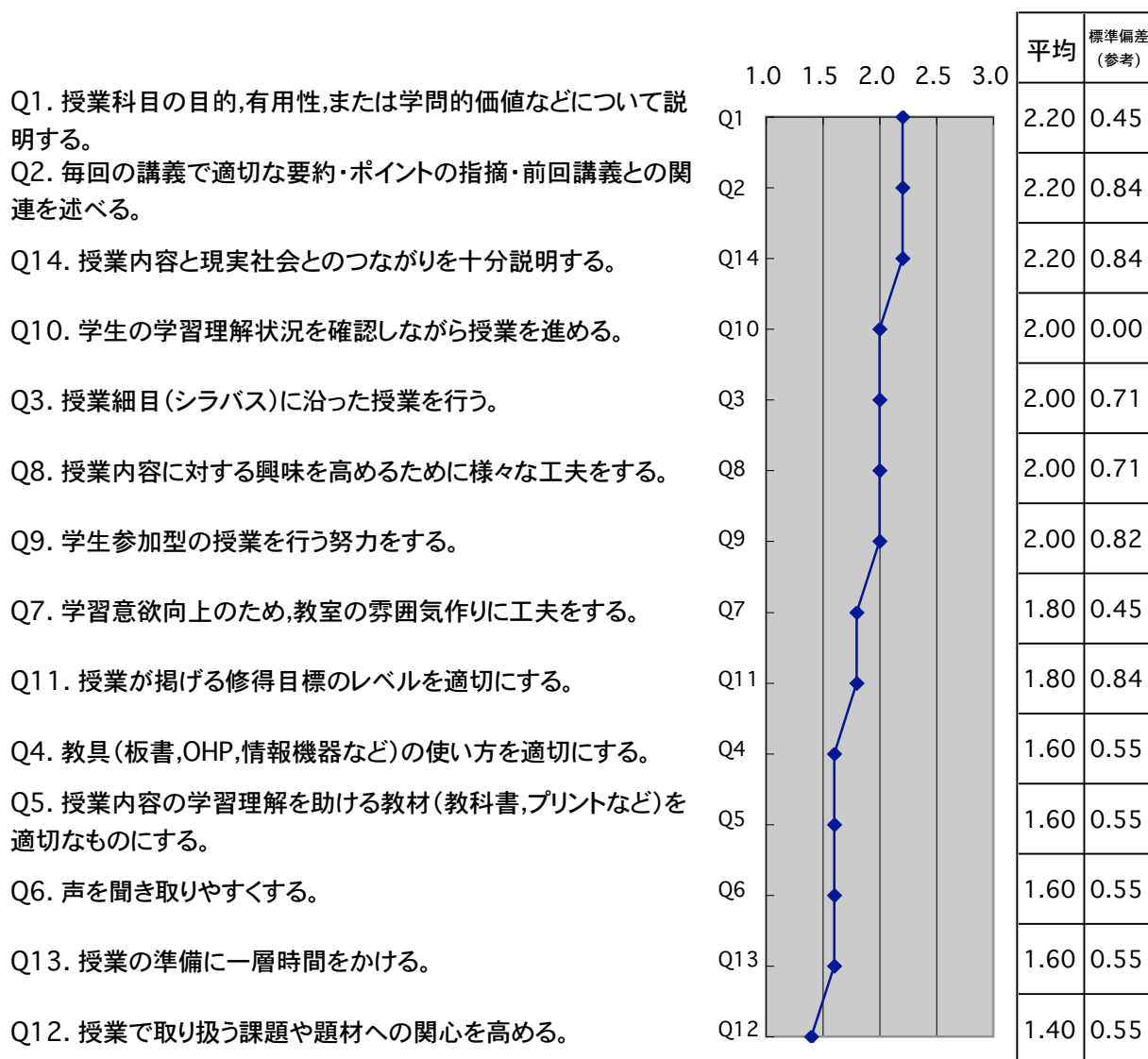
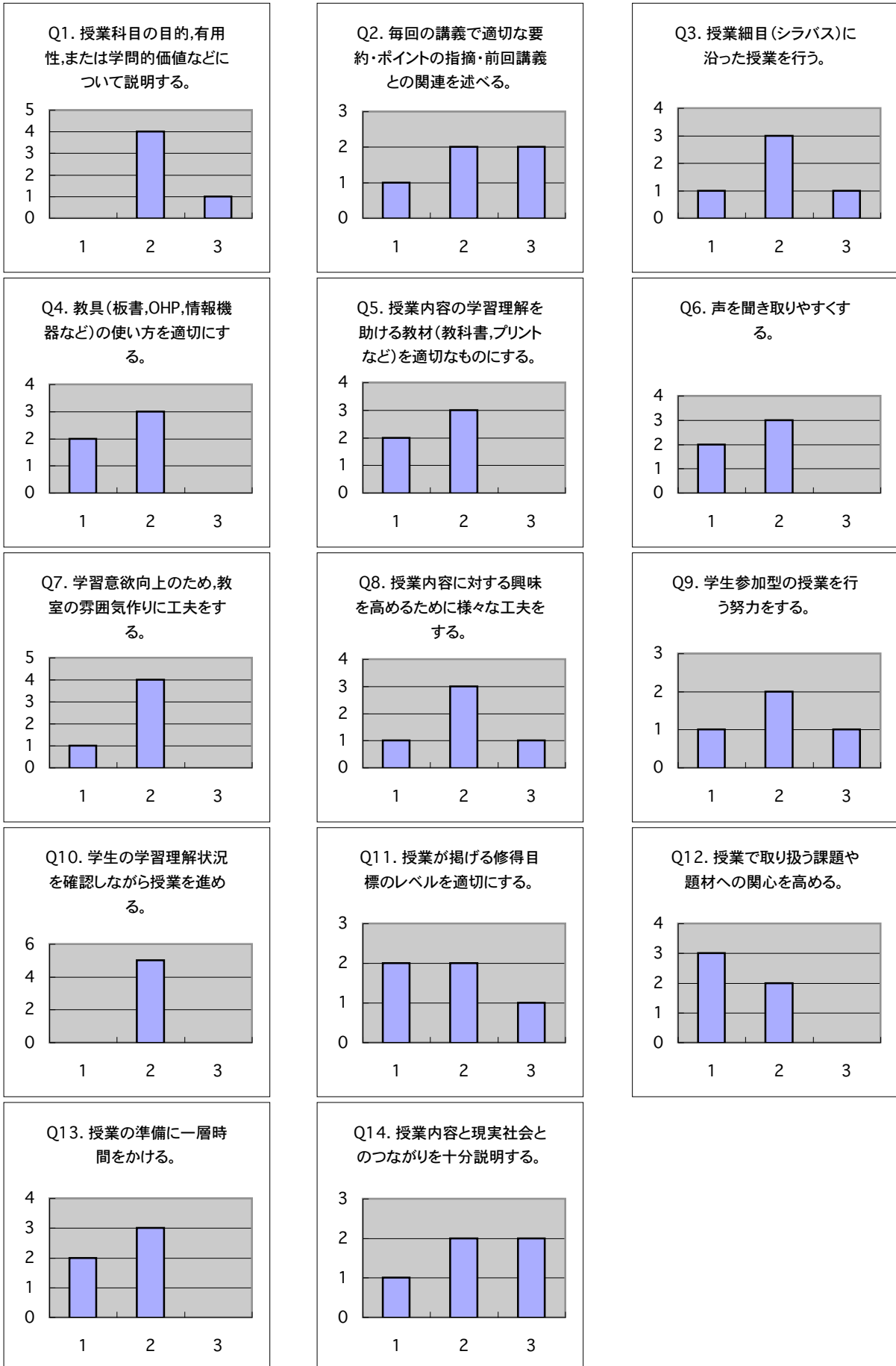


図2 教員が行った授業の工夫

図3 教員が行った授業の工夫(頻度分布)



5.4 教員の今後の授業の工夫

評価結果を見て、今後の授業をどのように工夫するかについて、以下のように尋ねた。尚、この質問への回答者数は6人である。

質問2b. 本評価結果をご覧になって、「今後の授業においてどのような工夫を検討されるか」をお伺い致します。それぞれの項目について、該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 現状でよい。 2. いくらか工夫する。 3. 大いに工夫する。

教員が検討している授業の工夫について図4に示す。また、その頻度分布を次の頁に示す（図5）。

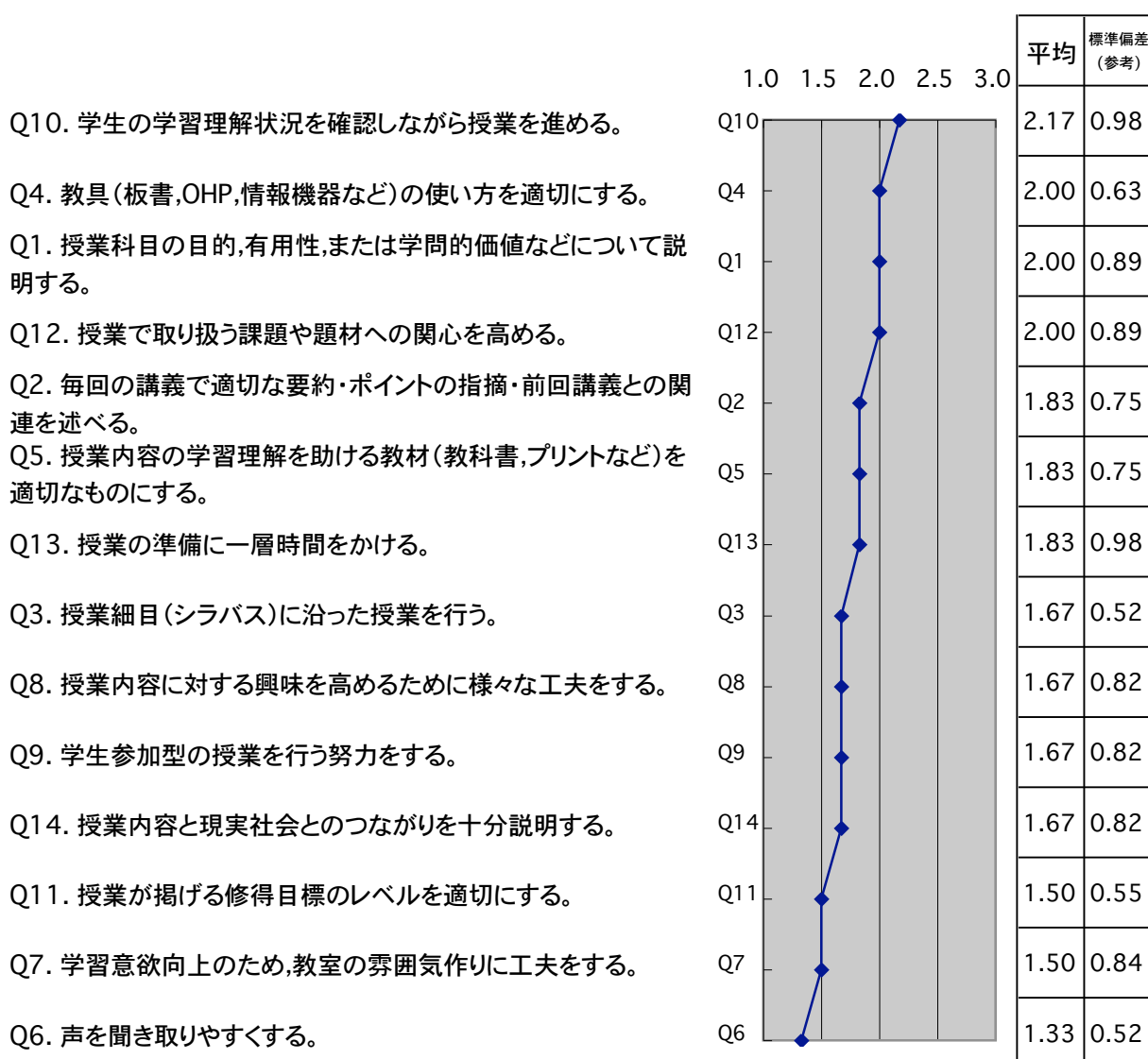
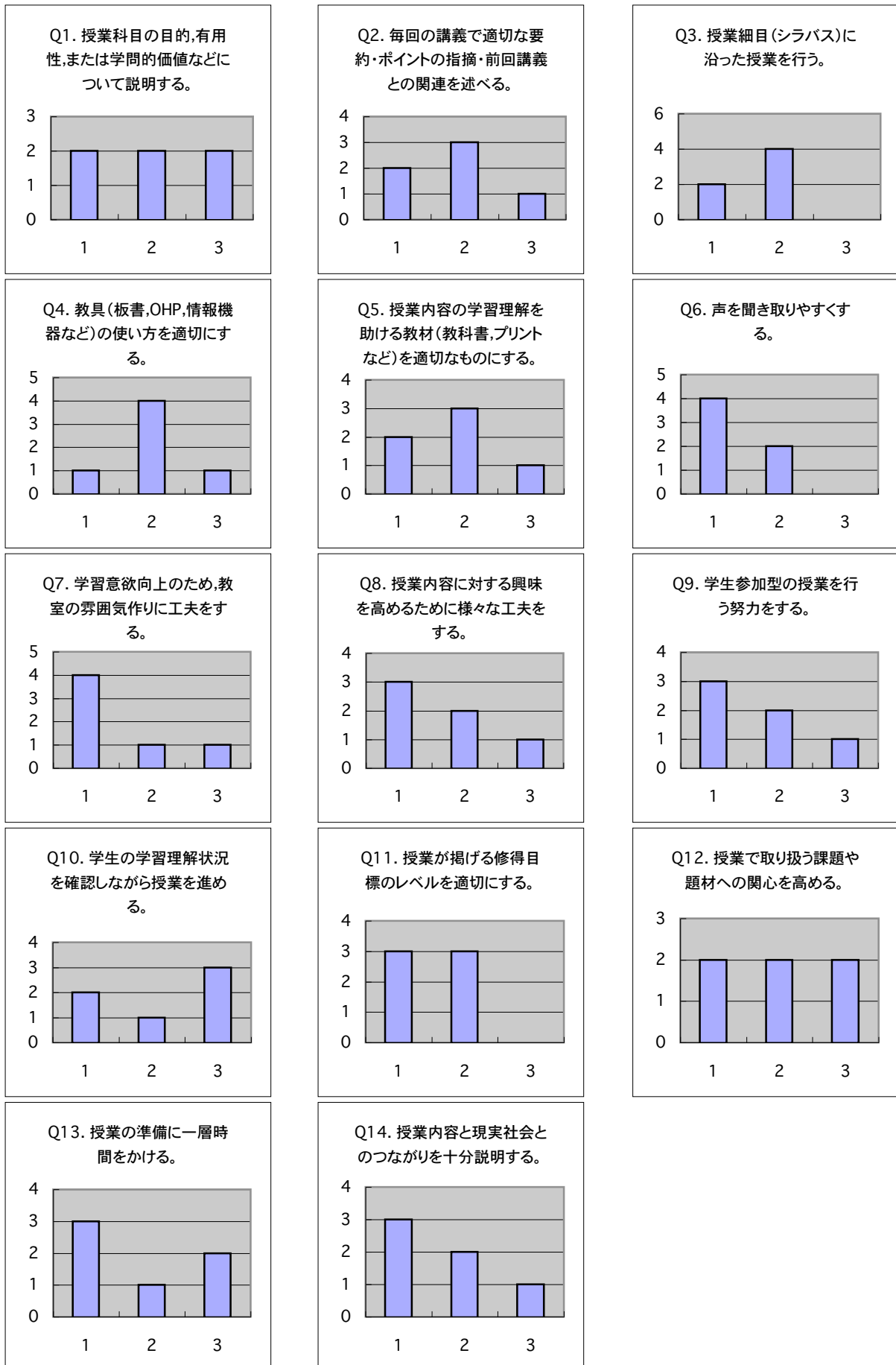


図4 今後の授業の工夫

図5 今後の授業の工夫(頻度分布)



5.5 授業評価の有効性について

授業評価結果を各教員にフィードバックしたり、評価報告書を作成したりする授業改善のための活動がどの程度役に立っているかを尋ねた。この質問への回答者数は6人である。

問題3. 以下それぞれの項目について、該当する番号に○印をつけて下さい。

1. 全くそう思わない。 2. あまりそう思わない。 3. いくらかそう思う。
4. かなりそう思う。 5. 非常にそう思う。

各質問項目に対する5段階評価の回答の平均値を図6に、頻度分布の割合(%)を図7に示す。

Q1. 授業評価結果はだいたい予想通りだった。

Q2. 授業評価結果は役に立った。

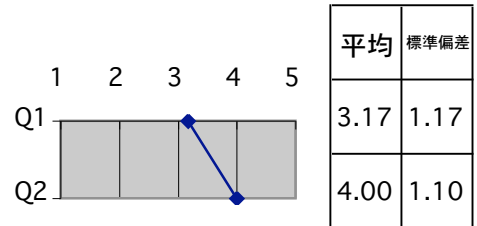
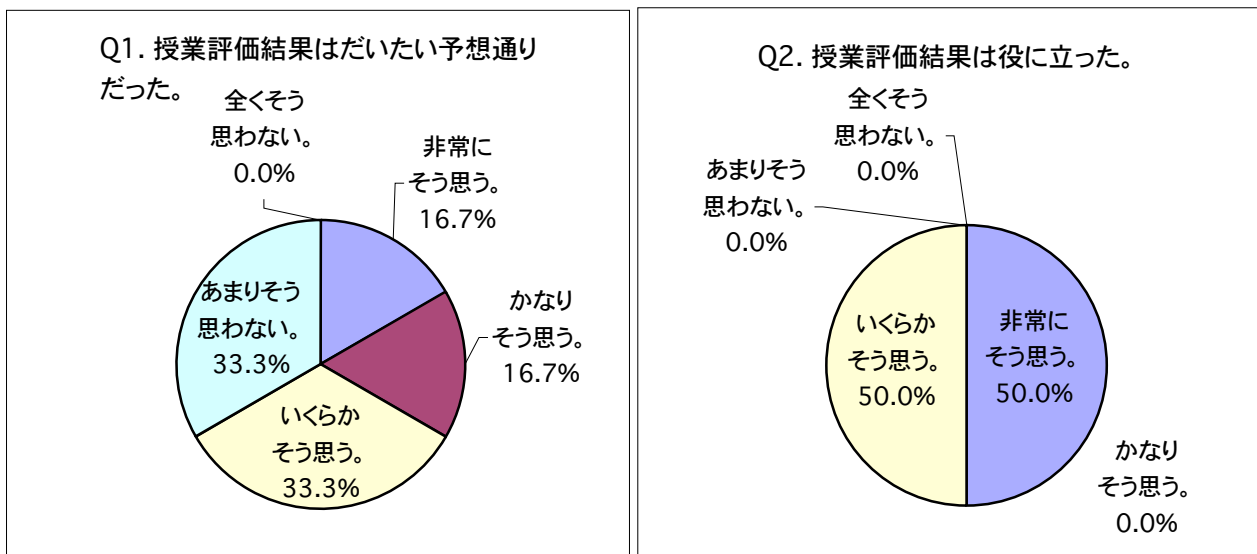


図6

図7 授業評価の有効性



(注：図では、四捨五入により小数第1位まで表記)

「Q1. 授業評価結果はだいたい予想通りだった。」の質問に対して、「非常に予想通りだった」と答えた教員は回答者の16.7%、「かなり予想通りだった」は16.7%、「幾らか予想通り」は33.3%である。「あまり予想通りでなかった」は33.3%、「全く予想外だった」は0.0%である。「予想通り」の方に答えた教員は、回答者の約66.7%、「予想外」の方は約33.3%である。

「Q2. 授業評価結果は役に立った。」の質問に対して、「非常に役に立った」と答えた教員は、回答者の50.0%、「かなり役に立った」は0.0%、「幾らか役に立った」は50.0%、「あまり役立たなかった」は0.0%、「全く役立たなかった」は0.0%である。この結果より、フィードバックに回答した教員の全員100.0%が「授業評価は役に立った」と答えている。

以上の結果より、フィードバック調査に回答した教員の約66.7%が大体予想通りの評価結果を得ており、全員100.0%が「授業評価結果は役に立った」と回答している。

さらに、「授業評価は役立った」と答えた教員に対して、評価が予想範囲内であったかどうかについて、また、「授業評価は役立たなかった」と答えた教員に対して、評価が予想範囲内であったかどうかについて、表にまとめて表示した（回答者数 6人）。

単位 (人)	評価は予想範囲内	評価は予想範囲外	横計
授業評価は役立った	4	2	6
授業評価は役立たなかった	0	0	0
縦計	4	2	6

この表を、回答者全体に対する割合(%)で表記すると、

単位 (%)	評価は予想範囲内	評価は予想範囲外	横計
授業評価は役立った	66.7	33.3	100.0
授業評価は役立たなかった	0.0	0.0	0.0
縦計	66.7	33.3	100.0

となる。以上より、「評価は予想範囲内」且つ「授業評価が役立った」と回答した教員は、回答者全体の66.7%になっている。その他は、表の通りである。

6. 教員自由記述

これはアンケート調査での自由回答欄に記入された意見を分類し、まとめた（回答数 5）。教員から貴重な意見が寄せられたが、多様な意見を取捨選択することなく、できるだけ元のままで記載するように努めた。但し、分類上、一つの文章を幾つかに分ける場合もある。ほとんど同じ内容のものは文末の（ ）内に類似回答数を示し、重複をさける。回答者や個人を特定する名称等は**でふせている。

- ・ 来年度は、もう一つの授業と統合して一新する予定です。授業時間外の学習時間（実時間）をとるべきです。

- ・ 来年度から、この授業はなくなりますが、良い評価を受けたので、他の授業に役立てる予定です。授業評価は、1つ1つの授業を見ても、役立ちません。今回、複数の授業で同じ学生が履修していて、かなり異なる結果だったので、有用な情報が得られました。

- ・ 本授業は、ワークショップ主体による体験学習に特徴があります。社会では、特に企業において、ワークショップによるビジョンづくりや、ブレインストーミングによる問題解決を行なう機会が増えており、その為の空間設計やツール・設備の充実が見られるようになっていきます。本授業による教育効果を高めるためには、ワークショップ用の部屋の確保、集中講義方式による実践的なワークショップ体験の実現が必須と考えられる為、次年度においては、その点を中心に更なる改善を図りたく存じます。

- ・ 本年度まで、この授業は、3・4、5・6時限の学部授業と連続した7・8時限であった影響かもしれない。来年度は、3・4時限がなくなるので、授業に一層取り組みたい。

- ・ 授業科目名を変更し、授業内容も大きく改訂した後、1年目の評価でしたので、大いに参考になりました。